

ナマステ！

ネパールに来て早1ヶ月が経ちました。

初めてのネパール、50歳も間近にして初の途上国への単身赴任ということで不安もありましたが、幸い面倒見の良い同僚に囲まれ、なんとか順調にやっています。

さて、私は **Monitoring & Evaluation (M&E)** スペシャリストとして働いています。主に **UNFPA** のネパール事務所が管理する様々なプログラムの進捗状況や、報告書やプログラムのデザインにちゃんと **RBM** (結果重視マネジメント) の視点が組み込まれているかチェック (モニターと評価) する仕事をしています。

RBM というのは、何をやったかという経過よりも、やったことにより望まれる成果が生まれたかという結果に重きを置いてプログラムの全体を見るやり方です。

UNFPA に限らず、あらゆる援助機関で、効果的なプログラムの実施のために **RBM** が取り入れられています。

といっても、まだまだ1ヶ月、**RBM** の視点を必要とする本格的な仕事はこれからというところです。

最初の1週間は、**M&E** は全てのプログラムを把握する必要があるということで、全てのプログラムの担当者から現在行っているプログラムについて話を聞くことができました。

もともと私は政府に対するアドボカシー (政策提言) や外部とのやりとりをする渉外を専門にやってきたのですが、やればやるほど、もっと現場のプログラムのことを知りたくなりました。そのような理由でこの **M&E** のポジションに応募した私にとって、プログラムのことをこんなに早くから知ることができるのは、願ったりかなったり。この最初のプログラム担当者とのやりとりで、大まかにですが、ネパール事務所のプログラムの全容を知ることができました。また同僚を知ることができ、そのため事務所にも早く慣れることができました。



同僚から家族計画についての説明を受ける私。（右が私です）

さて毎年7月11日は、世界人口デー。ロンドンでは家族計画サミットが開かれるなど、世界各地でイベントが開かれてきましたが、ネパールで行われたイベントに参加して来ました。



世界人口の日を記念して行われたサイドイベント

このイベントで報告があったのですが、ネパールでは、避妊の方法として一番選ばれているのは、不妊手術です。既婚女性のうち、不妊手術を避妊方法として実行しているのは14.7%。驚くのは避妊手術を受ける女性の年齢の若さです。平均年齢は27歳。不妊手術を受ける女性の3分の1は25歳以下です。それだけ早く出産を経験しているというではないでしょうか。ネパールの婚姻年齢は20歳と法律で決まっているにもかかわらず、18歳以下で結婚する（させられる）少女がまだ多く、そのため15歳から19歳で出産を経験する少女の数は22万人以上にのぼるとのことです。

UNFPA ネパールでは、児童婚の根絶にも熱心に取り組んでいます。

さて、ロンドンで行われた家族計画サミットを受け、ネパールでも企業との連携の動きが出て来ました。本来のM&Eの仕事ではないのですが、今までの私の経歴から、この方面の仕事も担当することになりました。次回はこちらの動きをご報告できるかと思います。

ネパールは、この冬まで続いていた計画停電も終わり、また最近、むやみやたらにクラクションを鳴らすことが規制されたそうで夜の騒音もひと段落し、街も穏やかさを取り戻しています。道路が未舗装のところが多いため、カトマンズ周辺は埃が

すごいのですが、そんな中でもおしゃれなカフェやベーカリー、オーガニック食品のお店などが増えてきているのが目立ちます。休日のカフェ巡りが楽しみのひとつです。